

新型コロナウイルス専門調整部会のロジスティックス支援について

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 事務局 総務担当)

萱原 慎理

要 旨

未曾有の新型コロナウイルス感染症の流行により、災害時と同様に指揮命令系統及び情報伝達等で混乱が大きく生じた。前線のオペレーションを支えるために事務職及びコメディカル職員が積極的にロジスティックスに参加することで、組織運営が上手く軌道に乗ることができたため、今後同様の新興感染症等の緊急対応時に今回の内容を参考にできるよう記録を残すものである。
(京市病紀 2022 ; 42: 55-58)

Key words : 新型コロナウイルス感染症, 災害派遣医療チーム (DMAT), ロジスティックス

緒 言

2021年2月現在、COVID-19は国内外で大きな影響を与え続けている。当院においては、2020年1月に京都市内初の陽性患者の受入に始まり、同年2月にダイヤモンドプリンセス号へのDMAT 1チームの派遣を行ったことからCOVID-19への対応が始まった。未曾有のウイルスに感染管理センターの負担は増していたが、後方支援(ロジスティックス)を行う人員が非常に不足していた。

研究目的

COVID-19対応へのロジスティックス支援について対応を振り返り、今後役に立つ知見を抽出すること。

結 果

2020年4月中旬に対策本部直下の組織であるCOVID-19対応に特化した新型コロナウイルス専門調整部会(部会)を立上げ(図1)、各部署からの報告・相談等への対応を行うことになった(図2)。部会の立上げにより、3階層の組織になったため、全体のマネジメントが容易になった。しかし、4月中旬に部会が立ち上がったときに、緊急事態宣言・個人防護具の不足等により、すでに感染管理センターの業務量はピークに達していた。さらに対策本部と感染管理センターとの組織上の位置づけが曖昧だったため、指揮命令は円滑ではなかった。今後、未知の感染症の流行があった場合には、より迅速に指揮命令系統を確立した方が、人的・物的資源の再分配がスムーズにできる可能性が高い。

部会でのロジスティックス支援の具体的内容は、本部

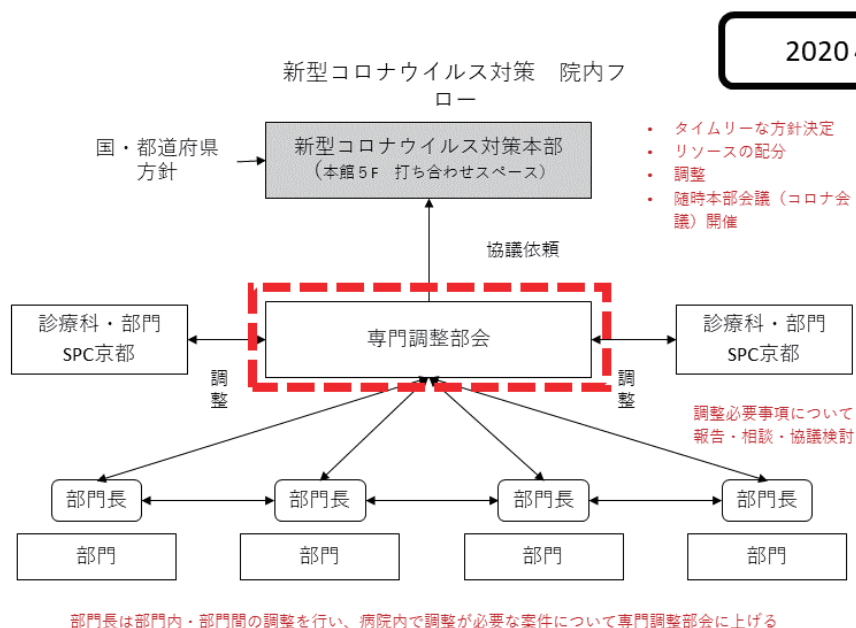


図1 院内組織図



図2 部会ミーティング風景

Y: やったこと				T: 次にやるべきこと			
<p>指揮命令</p> <ul style="list-style-type: none"> 本部で決定された方針に従い、行動を行った 	<p>安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全性に最も配慮した対応を行った 	<p>情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話連絡による伝達が多かった 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 状況ごとに評価できていたかは不明 	<p>指揮命令</p> <ul style="list-style-type: none"> 対策本部参集メンバーに事務局課長級及び陽性者発生部署の所属長を入れる 対策本部メンバー参集不可時の代替メンバーをあらかじめ決めておく PCR検査結果は感染症科部長から所属長に伝達する 方針決定後、必ず具体的な指示 (who when how(内容、どうやって)) を行う 	<p>部会ふりかえり (令和2年11月発生事案)</p>		
<p>安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> どの範囲までPCR検査を積極的に行うかその場での判断になった PCR検査結果を誰から受診者に伝えるか 方針を実行するための手段の決定が必要 (who when how(内容、どうやって)) 	<p>情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報伝達手段の確立の必要性 正確な情報の伝え方 決定事項の確認 (復唱) 感染管理センターだけでは本事実の情報を一元化して集約できていなかった 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の前に決定すべき事項の抽出が必要 PCR検査の結果前に多数の陽性者が出た場合の方針 + who when how を決定しておく必要がある 	<p>安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで発生したことがない部門から陽性者が発生した際のシュミレートを行う PCR検査の範囲、自宅待機者をどの範囲まで積極的に実施するか、あらかじめ方針として決めておく 	<p>情報伝達</p> <ul style="list-style-type: none"> coronaメールが作成された→テストメールの実行が必要→各所属長が認識できているか 方針を正確に伝達、共有するために口頭だけでなく、紙面もしくはメールにて伝達する 陽性者発生時には情報を一元化するために臨時的に情報センター(仮)を5階事務局打ち合わせスペースに設置する 各所属に連絡網の最新verにアップデートさせること 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 陽性者が複数人発生する最悪のケースを想定して、ダメージをシュミレーションし、事業継続が可能か検証する 陽性者発生時の「初動」について訓練が必要→今回のケースを題材しても良い 陽性者発生時には院内対応のふりかえりを必ず行い、必ず前回よりも良い対応をする あらかじめ決定すべき事項、行動をアクションカードに記載して安定した行動ができるようにしておく 		

図3 アセスメント図

及び事務部門とのリエゾン、部会及び本部の議事録作成及び院内への情報発信、感染管理センター内でのクロノロジー作成による部会内の情報共有、部会のグループLINEの新規作成等だった。特に、対策本部で何が話し合われているのか、現場で何が発生しているのか、につ

いて情報 (information) を整理し、考察・結論を加えた情報 (intelligence) を速やかに院内に情報公開を行った。その結果、対策本部と現場との認識のズレを最小限にすることができた。

また、部会をマネジメントするために、一定期間経過

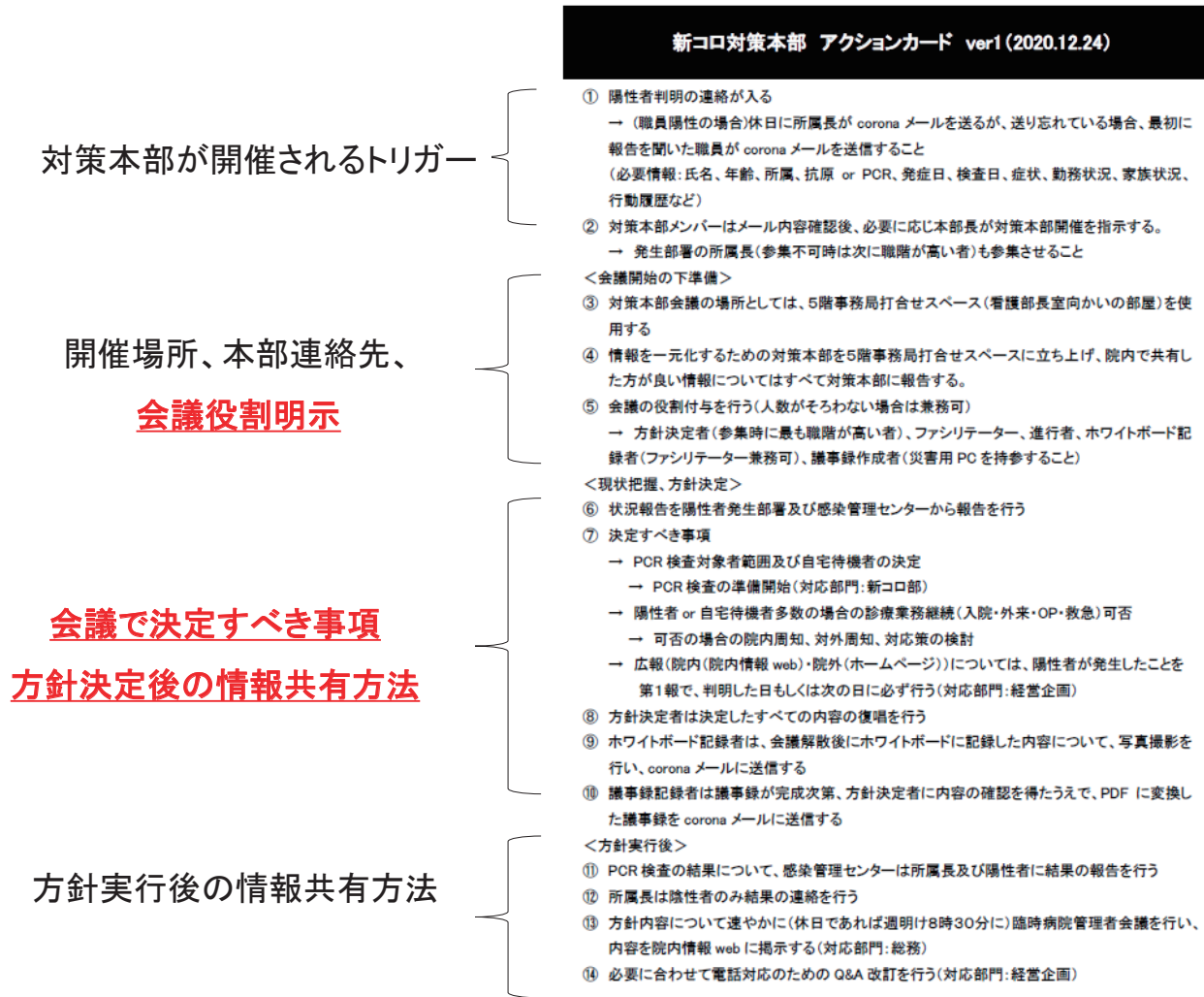


図4 対策本部アクションカード

後及び職員陽性者発生後に繰り返しアセスメントを実施した(図3)。アセスメントの手法は、YWT(Y(やったこと)W(わかったこと)T(つぎにやること))手法と災害時の原則であるCSCA(Command and Control(指揮と連携), Safety(安全確保), Communication(情報収集伝達), Assessment(評価))を組み合わせで行った。本アセスメントは、経験を振り返って次に活かすフレームワークとして有用であり、特に対策本部アクションカード等の作成により(図4)、対策本部のタイムリーな方針決定及び資源の調整を実施することができた。

考 察

今回の支援に従事した職員は、DMAT 隊員としてロジ

スティックス業務を元々経験したことがある事務職及びコメディカルであり、防災訓練における経験が非常に役立っている。非常時対応のロジスティックス業務においては、災害も感染症も大きく変わらないため、応急対応する人的資源として大いに期待できる。

結 論

ロジスティックス業務の経験がある職員が感染対策の運営に参加することで前線のオペレーションを支えることができた。COVID-19のような新興感染症が今後も現れることが予想されるが、医療現場を支えるためのロジスティックス支援は大変有用であり、今回の経験を経て、乗り越えられない感染症はないことがわかった。

Abstract

Logistics Support of the COVID-19 Expert Committee

Shinri Kayahara

Department of General Affairs, Kyoto City Hospital

The unprecedented novel coronavirus (COVID-19) disease has caused chaos in the chain of command and communication similar to that occurring in cases of disaster. The participation of the office workers and co-medical staff in the logistics to support the frontline operation, helped put the organizational management on the right track. We will leave a record of these procedures to serve as a reference to enable prompt response in future emergency situations such as in the case of a new infectious disease.

(J Kyoto City Hosp 2022; 42:55-58)

Key words: Novel coronavirus disease, Disaster Medical Assistance Team (DMAT), Logistics